

平成31年度に使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔音楽〕 種目〔音楽〕

1 本市の実態や児童の状況

- 本市では、「文化の祭典」や「こころの劇場」など、日頃の学習の成果を発表したり本物の舞台芸術に触れたりするなど、児童の音楽経験を豊かにする場を設定し、各学校に積極的な参加を呼び掛けている。また、音楽朝会や音楽鑑賞など、児童が音楽に親しむ機会を大切にしている学校が多い。
- 児童の経験の乏しさが「春の小川」や「こいのぼり」などの共通教材に表現されている情景を思い浮かべることができず、感じたことを言葉で表すなど、豊かに表現することができにくい課題につながっている。児童によって音楽経験の差が大きく、日常生活において伝統的な音楽に親しむ環境に置かれていない児童も多くいる。また、音楽活動の基礎的な能力に個人差があり、特に器楽の演奏においてその傾向がみられる。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	① 題材の目標の示し方 ② 共通事項の定着 ③ 技能を定着させるための工夫 ④ 我が国の音楽に関する内容の扱い
<主体的に学習に取り組む工夫>	⑤ 音楽づくりの学習の扱い ⑥ 器楽教材の扱い
<内容の構成・配列・分量>	⑦ 各領域の構成、分量
<内容の表現・表記>	⑧ 表現と学習内容との適切な関連付け ⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫
<言語活動の充実>	⑩ 鑑賞における言語活動充実の工夫

### 3 各教科書の特徴及び意見

教育出版	<p>1 基礎・基本の定着</p> <p>(1) 題材の目標の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目標は、左のページに横書きで示している。</li> <li>○ 目標は、キーワードの色を変えて示している。</li> <li>○ 目次は、題材名と同じ色で目標を示している。</li> <li>○ 目標につながる活動のポイントをマークと枠で囲んで示している。</li> <li>○ ページの右上に、リボン枠の形で題材名を示している。</li> </ul> <p>(2) 共通事項の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ (1) アは、「音楽のもと」としてページ右上の題材名の下にマークで示している。</li> <li>○ (1) イの音符や記号は、その教材で扱うものを右端に示している。</li> <li>○ 全学年に、「音楽のもとまとめ」があり、2年から6年では、音符や記号などを一覧にして巻末に示している。</li> </ul> <p>(3) 技能を定着させるための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鍵盤ハーモニカは、1年から3年で扱っている。</li> <li>○ 2年で「指かえ」「指くぐり」「指またぎ」を扱う。3年では、「指くぐり」と「指またぎ」を使う曲を1曲扱い、写真で示している。</li> <li>○ 1年では、鍵盤ハーモニカの実物大の写真を3ページに渡って示している。</li> <li>○ 3年のリコーダーの導入では、リコーダーのつくりと構え方、穴のふさぎ方を写真で示している。</li> <li>○ リコーダーの運指は、ふき口を下向きにしたリコーダーの絵で示している。</li> <li>○ リコーダーのタンギングは、「トゥ」「ル」、4年では、高い音を「ティ」と発音するように説明している。</li> <li>○ リコーダーの息の入れ方については、大きなしゃぼん玉をつくる時のような息でふくよう説明している。</li> </ul> <p>(4) 我が国の音楽に関する内容の扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全学年で鑑賞曲と歌唱教材を扱い、2・4・5・6年では、和楽器も扱うように示している。</li> </ul> <p>2 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>(1) 音楽づくりの学習の扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「音のスケッチ」として、全学年でリズムづくり、旋律づくりの活動を設定し、1・2年ではイメージを音楽で表す活動を設定している。</li> <li>○ 「音のスケッチ」では、友達の音とつなげたり重ねたりするなど、かかわりを促す活動を設定している。</li> <li>○ 旋律づくりなどでは、つくった旋律を書き込めるものもある。</li> </ul> <p>(2) 器楽教材の扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学年が上がるにつれ、鍵盤ハーモニカ、打楽器に加え、リコーダー、オルガンの低音、木琴、鉄琴などパート数が増えた曲を取り上げている。</li> <li>○ 児童が様々な楽器に関心を広げることができるように「楽器図鑑」のページを設けている。</li> </ul> <p>3 内容の構成・配列・分量</p> <p>(1) 各領域の構成、分量</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学年の題材数は、次のとおりである。 1年…7、2年…9、3年…8、4年…8、5年…7、6年…7</li> <li>○ 各学年に「基礎となる学習」「学習の広がり」の二つの題材があり、加えて選択的な内容を掲載している。</li> <li>○ 学年にふさわしい歌唱曲を巻末に取り上げている。</li> <li>○ 2年から合唱、5年から三部合唱を取り入れている。</li> <li>○ 歌唱、器楽、鑑賞、音楽づくりの教材をまんべんなく配列している。</li> </ul> <p>4 内容の表現・表記</p> <p>(1) 表現と学習内容との適切な関連付け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国歌は2ページで扱い、歌詞と楽譜を示しており、さらに細石の写真や歌詞の大意の説明を示している。</li> <li>○ 共通教材は見開きで、縦書きの歌詞と楽譜で示している。大きなイラストもしくは写真でページ全体が一枚の写真のようなレイアウトになっている。すべての曲に活動のポイントを示している。</li> <li>○ 1・2・3年の表紙裏には、見開きの目次がある。</li> <li>○ 4・5・6年の表紙裏には、見開きで、活躍中の演奏家からのメッセージを掲載している。</li> <li>○ 4・5・6年では、鑑賞の資料として、両開きの大きな写真を掲載している。</li> </ul> <p>(2) 配色や文字の大きさ等の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 曲名は薄茶色、歌詞は黒色を中心に書かれている。背景は、薄い色を使っている。</li> </ul> <p>5 言語活動の充実</p> <p>(1) 鑑賞における言語活動充実の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鑑賞する際のポイントを問いかける記述があり、気付いたことや感じ取ったことを友達に伝えようと促す文がある。</li> <li>○ 3年からは、気付きや感じ取ったことを、教科書に直接書き込むことのできる欄を設けている。</li> <li>○ 2年以上の巻末には、「音楽を表すいろいろな言葉」のページが設けられ、さらに言葉を見つけた場合は、新たに記入できる欄がある。</li> </ul>
意見	<p>教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。</p> <p>(理由)</p> <p>教育出版の教科書は、共通教材における情景が思い浮かべやすいよう、ページ全体を1枚の写真のようなレイアウトにしたり、鑑賞の資料として両開きの大きな写真を用いたりしている。また、「音楽を表すいろいろな言葉」のページや感じ取ったことを書き込む欄を設け、鑑賞における言語活動の充実を図る工夫を施している。器楽の技能の定着を促すために、楽器のつくりを示し、基本的な演奏方法について写真やイラストと言葉で示すとともに、「楽器図鑑」のページを設け、児童が様々な楽器に関心を広げることができるようにしている。さらに、国歌は2ページ扱いで細石の写真や歌詞の大意を掲載している。こうした特徴は、感じたことを豊かに表現することができにくく、音楽活動の基礎的な能力に課題のある本市児童の状況に対応することができるものである。</p>

1 基礎・基本の定着

(1) 題材の目標の示し方

- 目標は、題材の始めのページ左側に縦に大きく示し、右上にも同じ色で示している。
- 目標は、全て黒色で示している。
- 目次は、教材のページと同じ色の枠で題材の目標を示している。
- 目標につながる活動のポイントを枠で囲んで示している。

(2) 共通事項の定着

- (1) アは、「ふりかえりのページ」として巻末にその学年で学ぶものについてまとめて示している。
- (1) イの音符や記号は、「新しく覚えること」とし、枠で囲んで示しており、書く練習をする欄がある。
- 3年から6年では、共通事項を一覧にして巻末に示している。

(3) 技能を定着させるための工夫

- 鍵盤ハーモニカは1年から3年で扱っている。
- 2年で「指替え」を扱う。3年では、「指くぐり」と「指またぎ」を使う曲を1曲扱い、写真で示している。
- 1年では、鍵盤ハーモニカの写真を示している。
- 3年のリコーダーの導入では、構え方、穴のふさぎ方を写真で示している。
- リコーダーの運指は、ふき口を下向きにしたリコーダーの絵で示している。
- 「フー」と「トゥ」を比較してタンギングを習得させている。4年では、「ティ」と発音するように説明している。

(4) 我が国の音楽に関する内容の扱い

- 全学年で鑑賞曲と歌唱教材を扱い、3・4・5年では、和楽器も扱うように示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 音楽づくりの学習の扱い

- 「音楽づくり」として、全学年でリズムづくり、旋律づくりの活動を設定し、1年から3年ではイメージを音楽で表す活動を設定している。
- 「音楽づくり」などでは、「友達とリレーしよう」など、かかわりを促す活動を設定している。
- 旋律づくりなど、つくった旋律を書き込めるようになっているものもある。

(2) 器楽教材の扱い

- 学年が上がるにつれ、鍵盤ハーモニカ、打楽器に加え、リコーダー、オルガンの低音、木琴、鉄琴などパート数が増えた曲を取り上げている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 各領域の構成、分量

- 各学年の題材数は、次のとおりである。  
1年…8、2年…8、3年…7、4年…7、5年…7、6年…7
- 学年にふさわしい歌唱曲を巻末に取り上げている。
- 3年から合唱、5年から三部合唱を取り入れている。
- 歌唱、器楽、鑑賞、音楽づくりの教材をまんべんなく配列している。

4 内容の表現・表記

(1) 表現と学習内容との適切な関連付け

- 国歌は1ページで扱い、歌詞と楽譜を示している。
- 共通教材は見開きで、縦書きの歌詞と楽譜で示している。大きなイラストもしくは写真がある。すべての曲に歌の説明や活動のポイントを示している。
- 1・2年の表紙裏には、見開きの目次がある。
- 3・4・5・6年の表紙裏には、見開きの「音楽プリズム」として、自然や演奏の様子を掲載している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 曲名、歌詞は黒色を中心に書かれている。背景は、白色を中心に薄い色を使っている。

5 言語活動の充実

(1) 鑑賞における言語活動充実の工夫

- 鑑賞する際のポイントや児童の発言の例を示しており、気付いたことや感じ取ったことを友達に伝えようと促す文がある。
- 3年と4年では、気付いたことや感じ取ったことを教科書に直接書き込むことのできる欄を設けている。

意見

教育芸術社の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

教育芸術社の教科書は、共通教材において歌の説明や活動のポイントを示している。また、鑑賞する際のポイントや児童の発言の例を示し、鑑賞における言語活動充実の工夫を図っている。器楽の技能の定着を促すために、基本的な演奏方法について写真とイラスト、言葉で示している。こうした特徴は、感じたことを豊かに表現することができるように、音楽活動の基礎的な能力に課題のある本市児童の状況に対応することができるものである。

平成31年度に使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔 図画工作 〕 種目〔 図画工作 〕

平成31年度使用小学校用教科用図書の採択について

教科 [図画工作科] 種目 [図画工作科]

1 本市の実態や児童の状況

- 本市には、美術館を有する旧市街地と、新たに開発された住宅地、商業地、山や海や川などを主体とした自然豊かな地域など、様々な環境がみられ、児童を取り巻く学習環境にも大きな違いがある。
- 児童の実態として、全体的に新たな活動への興味・関心が旺盛で、素直に感じ取り自由に表現している傾向があることがうかがえる。反面、自然や人とのかかわりや生活経験の不足から、活動への見通しや自分の表現に自信がもてず、粘り強く表現活動に取り組めない児童や、図画工作科に苦手意識をもっている児童もいる。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	① 題材の目標の示し方 ② 材料・用具の取扱いと表現方法の紹介 ③ 伝統と文化に関する内容の扱い
<主体的に学習に取り組む工夫>	④ 興味・関心を高めるための工夫 ⑤ 活動の流れやポイントの示し方
<内容の構成・配列・分量>	⑥ 題材の配列や分量
<内容の表現・表記>	⑦ 活動や作品の解説の仕方 ⑧ 配色や文字の大きさ等の工夫
<言語活動の充実>	⑨ 表現や鑑賞における言語活動の工夫

3 各教科書の特徴及び意見

開  
隆  
堂  
出  
版

1 基礎・基本の定着

(1) 題材の目標の示し方

- 最も大切にしたい学習のめあてを1つの視点で、マークと文でページ上部に示している。

(2) 材料・用具の取扱いと表現方法の紹介

- 巻末2～4ページで材料・用具の扱い方について掲載している。その学年で初めて扱うものだけでなく、以前扱った材料・用具について、表現の幅を広げるためのコーナーも設けている。
- 各題材で、材料・用具の解説や活動のヒントや安全面に配慮すべきことを、灰色や黄色の丸囲みにより示している。必要に応じて、用具の詳しい使い方が参照できるよう、ページ下部に巻末に導くマークを付けている。
- 各題材の材料・用具については、目次のページに示している。低学年で絵の具を扱う題材については、共用の絵の具について、題材のページに説明によって示している。

(3) 伝統と文化に関する内容の扱い

- 巻頭に見開きで、テーマを決めて有名な作家や児童の作品を紹介しており、作家の夢や作品を、思いと共に紹介している。
- 日本の伝統文化に関わる工芸品や作品を、各冊の「みんなのギャラリー」の「伝統の技を学ぶ」コーナーで紹介している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 材料や用具、活動がイメージしやすい題材名となっている。
- 題材名は、題材や活動に合わせて、字体・色・デザインを変えている。
- リード文を、児童が発する言葉や授業の導入に使いやすい言葉で示している。
- 写真は、授業の活動の様子や、様々な児童の作品を掲載している。また、児童の声を吹き出しで掲載している箇所もある。
- イメージが広がるように、いろいろな手法の作品例や展示例を紹介している。
- 巻末付近の「みんなのギャラリー」では、「みんなできいっしょに」「教室を飛び出して」「伝統の技を学ぶ」の3つの視点で身の回りの「美」を紹介している。
- 巻頭付近には、様々なジャンルの芸術作品を掲載しているページと、造形にかかわる人々の作品とメッセージを掲載し、鑑賞としてのページを設定している。

(2) 活動の流れやポイントの示し方

- 各題材で、活動のめあてを示している。「考えを広げて」のコーナーでは、発展的な活動を紹介している。
- 題材の最後に「ふりかえってみよう」「ふりかえって話し合おう」という自己評価コーナーを掲載し、振り返りのポイントを示している。
- 「あなたならどう表しますか」というコーナーで、製作過程の流れを写真と文で順番に示しているコーナーもある。
- 幾つかの活動例を、児童のつぶやきと共に図や写真で示している。つくり方や遊び方も示している。
- 青い丸囲みで「～してみよう」と活動のヒントを掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 題材の配列や分量

- 項目が連続している部分がある。一部選択扱いとなっている。
- 各題材の多くを見開きで掲載しているが、1ページ扱いのものもある。
- 各巻のページ数及び題材数は以下のとおりである。  

<1・2年 上>	45ページ	造形遊び：4、	絵：10、	立体：2、	工作：9、	鑑賞：6
<1・2年 下>	45ページ	造形遊び：4、	絵：10、	立体：2、	工作：8、	鑑賞：5
<3・4年 上>	45ページ	造形遊び：3、	絵：9、	立体：2、	工作：9、	鑑賞：4
<3・4年 下>	45ページ	造形遊び：2、	絵：8、	立体：2、	工作：6、	鑑賞：4
<5・6年 上>	47ページ	造形遊び：2、	絵：7、	立体：2、	工作：8、	鑑賞：4
<5・6年 下>	47ページ	造形遊び：2、	絵：8、	立体：2、	工作：7、	鑑賞：4
- ※ 造形遊び、工作、絵、絵と立体とが一部選択となっている。
- ※ 巻頭、巻中、巻末に設定されている「小さな美術館」「ゆめをかたちに」「みんなのギャラリー」「パレットコーナー」「道具箱」のコーナーは題材数に含まれている。

4 内容の表現・表記

(1) 活動や作品の解説の仕方

- 活動や作品の写真の下に、「」を使って、児童の言葉で製作の意図や工夫などの解説を掲載している。
- 多様な表し方や展示方法例を写真で幾つか示してある題材がある。
- マークをうまく活用している。
- 作品に吹き出しを配置し、作品の面白さを語らせている題材もある。
- 冊子の大きさは、A4判。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 表現や鑑賞における言語活動の工夫

- 吹き出しや活動の解説で、鑑賞の視点を示している。
- 各題材に「ふり返って話し合おう」のコーナーを設け、振り返る視点を示している。
- 巻頭の「ちいさなびじゅつかん」では、身近なものや作家の作品を掲載し、鑑賞活動の手立てとなる問いかけを示している。
- カードを使った鑑賞方法を紹介している。

意見

開隆堂出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

開隆堂出版の教科書は、巻末に材料・用具の扱い方を掲載し、各題材でも材料・用具の解説や安全面に配慮すべきことを説明している。また、題材の最後に「ふり返って話し合おう」の自己評価コーナーを設け、言語活動の充実のための工夫がみられる。こうした特徴は、活動への見通しがもてず粘り強く表現活動に取り組めないという本市児童の状況に対し、自己評価のたびに目標や自分の達成度を確認できる点で、対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 題材の目標の示し方

- 学習のめあてを4つの視点で、マークと文で題材名の横に示している。
- 特に重点化したいめあてには下線が引かれている。

(2) 材料・用具の取扱いと表現方法の紹介

- 巻末6ページで材料・用具の扱い方について掲載している。初めて扱う用具や材料については、名前や扱い方を詳細に解説している。
- 各題材で、材料・用具の扱い方や表現方法の工夫について図や写真で解説している。特に注意が必要な場合には、「気をつけよう」の見出しで用具の安全な扱い方を示している。
- 各題材のページ下部に、主に用いる用具をマークで示している。必要に応じて詳しい使い方が参照できるように、巻末に導く矢印も付けている。また、低学年では、共用の絵の具について巻末や題材のページに説明やマークで示している。

(3) 伝統と文化に関する内容の扱い

- 巻頭や鑑賞のページでは、日本や海外のアーティストの作品を紹介している。また、児童の作品紹介では、海外の児童作品も掲載している。
- 日本の伝統文化に関わる工芸品や作品を、主に中学年以降において多数紹介している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 材料や用具、活動がイメージしやすい題材名となっている。
- 題材名は、題材や活動に合わせて、字体・色・デザインを変えている。
- リード文を授業の導入時に使いやすい言葉で示している。
- 写真は、授業の活動の様子や、様々な児童の作品を掲載している。
- イメージが広がるように、いろいろな手法の作品例や展示例を紹介している。
- 巻末付近の「ぞうけいのもり」では見開きで、ジャンルを超えて身の回りの様々なものを紹介し、身近なものの造形的な面白さや美しさを紹介している。〔共通事項〕の形や色、素材の質感、イメージに注目させているものが多い。
- 巻頭付近には、「教科書美術館」として、絵画や彫刻、モニュメントなどの様々な作品が鑑賞できるページを設定している。
- 目次に連動するページに年間の活動が見通せるよう、作品や子供たちの活動の情景写真を掲載しているページを設定している。

(2) 活動の流れやポイントの示し方

- 題材の始めから片付けまでの流れや製作過程に沿うように写真や文、枠等を配置している。
- 題材の最後に、振り返りや自己評価に導く文を、男女児童の吹き出しにより示している。
- 工作の題材では、つくり方のヒントとなる説明を、絵や図を使って、枠内に示している。
- 手元の様子など、活動のポイントとなる場面をアップにした写真を掲載している。
- 「チーロさん」というキャラクターが活動のヒントや工夫の手立てを示している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 題材の配列や分量

- 各項目が重ならないように配列している。
  - 各題材を見開きで掲載している。
  - 各巻のページ数及び題材数は以下の通りである。
- |          |       |          |       |        |        |       |
|----------|-------|----------|-------|--------|--------|-------|
| <1・2年 上> | 57ページ | 造形遊び: 4、 | 絵: 7、 | 立体: 4、 | 工作: 6、 | 鑑賞: 1 |
| <1・2年 下> | 57ページ | 造形遊び: 4、 | 絵: 7、 | 立体: 4、 | 工作: 5、 | 鑑賞: 2 |
| <3・4年 上> | 57ページ | 造形遊び: 4、 | 絵: 7、 | 立体: 4、 | 工作: 5、 | 鑑賞: 1 |
| <3・4年 下> | 57ページ | 造形遊び: 4、 | 絵: 6、 | 立体: 4、 | 工作: 5、 | 鑑賞: 1 |
| <5・6年 上> | 57ページ | 造形遊び: 2、 | 絵: 6、 | 立体: 4、 | 工作: 4、 | 鑑賞: 2 |
| <5・6年 下> | 57ページ | 造形遊び: 2、 | 絵: 6、 | 立体: 4、 | 工作: 4、 | 鑑賞: 2 |
- ※ 「教科書美術館」「図画工作科の広がり」「ぞうけいのもり」「つかってみよう材料と用具」のページは、題材数には含まれていない。

4 内容の表現・表記

(1) 活動や作品の解説の仕方

- 活動や作品の写真の近くに、水色の枠を使って、児童の言葉で製作の意図や工夫・思いを詳しく掲載している。
- 多様な表示方や展示方法例を写真で幾つか示してある題材がある。
- ページの最後に、題材の終末で児童に感じてほしいことを、児童のつぶやきのかたちで例示している。
- 写真が豊富で、笑顔が多い。マークも多彩。
- 冊子の大きさは、従来と同様レターサイズである。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 表現や鑑賞における言語活動の工夫

- 吹き出しや活動の解説で、鑑賞の視点を示している。
- 巻頭の「教科書美術館」では、低・中・高に合わせて自分たちの造形活動や身近なもの、作家作品を掲載し、鑑賞活動の手立てとなる問いかけも示している。
- アートカードの活用（5・6年上）や芸術作品の鑑賞の仕方を紹介している。
- カード（アートカード以外）を使った鑑賞方法も紹介している。

意見

日本文教出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

日本文教出版の教科書は、学習指導要領に沿った4つの観点による目標を題材ごとに短い文で示している。また、巻末に材料・用具の扱い方を詳細に掲載し、各題材でも材料・用具の解説や安全面に配慮すべきことを説明している他、必要な材料や用具をマークで示している。表現活動では、活動の始まりから終末の振り返り及び片付けまでの流れに沿った写真や解説の配置がなされている。鑑賞活動では、鑑賞題材にアートカードを用いた活動を取り上げている。こうした特徴は、活動への見通しがもてず、粘り強く表現活動に取り組めないという本市児童の状況に対応することができるものであり、美術館の有無など児童の学習環境に大きな違いがある本市の実態にも対応することができるものである。



平成31年度に使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔家庭〕種目〔家庭〕

1 本市の実態や児童の状況

- 本市では、核家族の家庭が多く、伝統的な和食を食べる機会が減り、マナーや繰り返しものを大切に使うこと、家族のだんらん等に対する意識が低い傾向がある。もともと、児童の「食」への興味・関心は高い。それに加え、各校での家庭科での調理実習を中心とした実践的・体験的な活動や学校給食での栄養のバランスや食べる楽しさ等を児童に伝える取組が、より児童の興味・関心・意欲を高めている。
- 「生活リズムカレンダー」の取組により、毎日朝食を食べる児童は多いが、献立は菓子パンと牛乳等手作りではないことが明らかになっている。また、生活が便利になり、衣類は手作りが減り、買い物はインターネットを活用する等、生活の中で縫い物をしている姿を見たり一緒に買い物に行ったりする等児童の生活体験が乏しい。保護者もこうした姿を「見せる」という意識が低い。生活環境が変化し多様な家庭生活が営まれている中で、児童自身が発信者となり生活をよりよく工夫しようとする実践意欲が乏しい。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	① 題材のめあてや振り返りの示し方 ② 日本の伝統文化に関する内容の扱い ③ 基礎的・基本的な知識・技能の習得の工夫
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	④ 実践的・体験的な活動をとおして、実感を伴って理解するための工夫 ⑤ 興味・関心をもたせるための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑥ 題材や資料等の配列 ⑦ 生活に生かす工夫及び発展的学習に関する工夫
＜内容の表現・表記＞	⑧ 挿絵、写真等の資料の活用の工夫 ⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫
＜言語活動の充実＞	⑩ 言葉や図を使って考えたり説明したりする学習活動の工夫

3 各教科書の特徴及び意見

東京書籍

1 基礎・基本の定着

(1) 題材のめあてや振り返りの示し方

- 3つの視点から示されためあてを全ての題材の最初と小題材ごとに示している。
- 小題材ごとにめあてに対応した質問形式の振り返りがある。
- 成長や学習を振り返る「成長の記録」、「これからの私たち」がある。

(2) 日本の伝統文化に関する内容の扱い

- 「日本の伝統」でお茶や漆器などを扱った伝統的な食事や住まい方等を掲載している。(12か所)
- 広島郷土料理を取り上げている。(府中味噌・牡蠣の土手鍋)
- 食事のマナーは、学習指導要領解説に基づいて、6年の調理の題材の最後に扱っている。

(3) 基礎的・基本的な知識・技能の習得の工夫

- 知識・技能は「いつも確かめよう」(13か所)、「これだけはできるようになろう」(17か所)(チェック項目1~3)で定着を図っている。「これだけはできるようになろう」の内容は活動、実習のポイントを具体的に問うている。
- 実習や計画の手順を横流れのデザインで示している。図・絵・写真もあるが、言葉だけの説明もある。
- 巻末拡大版の実物大写真では、左利きや個に応じた方法を説明している。実物大なので見やすく、真似しやすくなっている。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 実践的・体験的な活動をとおして、実感を伴って理解するための工夫

- 実践的・体験的な活動の事例及び作品例として54事例取り上げている。
- ランチョンマットの製作で、手順と共に「リンク」として、関連ページを示している。
- 「資料 布の性質を比べる方法」では実際に比較できるような実験を1ページにまとめて掲載している。
- 炊飯では、中が見える鍋の写真と観察したことを記録する欄を並べて記載している。

(2) 興味・関心をもたせるための工夫

- 題材の最初のページに、題材の見通しがもてるように、めあてと共に写真や絵を掲載している。
- キャラクターの吹き出しが、学習のヒントとなったり、興味をもって考えるきっかけとなったりしている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 題材や資料等の配列

- 5年・6年共に7題材ずつ合計14題材配列している。
- 快適な暮らしに関わる題材を全て6年で学習するよう配列している。
- 消費生活の題材に8ページ使い内容が豊富。

(2) 生活に生かす工夫及び発展的学習に関する工夫

- 各題材の最後の小題材が「生活に生かそう」となっており、14か所設定している。
- 家族や地域の一人であることを意識させるために、6年のテーマを「力を高め、まわりの人も笑顔にしよう」と設定している。
- 「環境マーク」を記したコーナーで、米のとぎ汁などの活用法や処理の仕方など生活への生かし方を示している。
- 学んだことを家庭で生かせるように、「自由研究」を学年2回ずつ設定している。
- 「プロに聞く」を7コーナー設け、キャリア教育につなげている。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真等の資料の活用の工夫

- 活動内容が分かるように、写真を掲載している。
- 細かい情報は絵や図を併用している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- ふりがなの表示はやや大きく読みやすくしている。
- 重要な事項はゴシック体で表示している。
- 配色は、カラーバリアフリーに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 言葉や図を使って考えたり説明したりする学習活動の工夫

- 「考える」「調べる」「実習する」「話し合う」「活用する」など、言語活動を促す「Do!活動」のコーナーを1題材に4~8か所設定している。
- 教科書に調べたことなどを書き込む欄が多く、書き方の例を示している。

意見

東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

東京書籍の教科書は、巻末に拡大版の実物大写真を掲載し、左利きや個に応じた方法等を説明し、見やすく、真似しやすい工夫を施している。また、学習内容を生活に生かすため、各題材の最後の小題材が「生活に生かそう」となっていたり、「自由研究」を設定したりしている。こうした特徴は、縫い物や買い物等の生活体験が乏しく、児童自身が発信者となり生活をよりよく工夫しようとする実践意欲が乏しい本市児童の状況に対応するものである。

## 1 基礎・基本の定着

### (1) 題材のめあてや振り返りの示し方

- 視点を定めためあてを全ての題材の最初に示している。
- 題材のめあてに対応したチェック式の振り返り「ふり返ろう」がある。チェックしながら自己評価ができる。
- 5年と6年の間に、「5年生の学習をふり返り、6年生の学習へ」のページがある。

### (2) 日本の伝統文化に関する内容の扱い

- 「発展」「チャレンジコーナー」などでお茶や郷土料理などを扱った伝統的な食事や住まい方等を掲載している。(12か所)
- 広島郷土料理を取り上げている。(牡蠣の土手鍋)
- 食事のマナーは、学習指導要領解説で示された全ての例を5年の最初の調理の題材の中で扱っている。

### (3) 基礎的・基本的な知識・技能の習得の工夫

- 知識・技能は、「できたかな」(15か所)(チェック項目2～7)で、定着を図っている。
- 実習や計画の手順を分かりやすく横一列の帯で表記し、手順ごとに図・絵・写真を併記している。
- 巻末には、実習を成功させるためのポイントを示している。
- 家庭科に関する用語を「ひとロメモ」で解説し、巻末に「家庭科でよく使われる用語一覧」を掲載している。

## 2 主体的に学習に取り組む工夫

### (1) 実践的・体験的な活動をとおして、実感を伴って理解するための工夫

- 実践的・体験的な活動の事例及び作品例として73事例取り上げている。
- ランチョンマットの製作で、自力で製作の実践ができるよう、手順を細部まで図とともに示している。
- 布の性質を比べる方法は、題材に応じて「調べよう」のコーナーでその都度示している。
- 炊飯では、中が見える鍋と普通の鍋の写真を比較して記載している。

### (2) 興味・関心をもたせるための工夫

- 題材の最初のページに、題材の見通しがもてるように、めあてと共に写真を掲載している。
- キャラクターの吹き出しが、学習のヒントとなったり、興味をもって考えるきっかけとなったりしている。

## 3 内容の構成・配列・分量

### (1) 題材や資料等の配列

- 5年10題材、6年7題材合計17題材で、スモールステップで学習できるように配列している。
- 快適な暮らしに関わる題材を5年と6年で学習するよう配列している。

### (2) 生活に生かす工夫及び発展的学習に関する工夫

- 各題材の最後に生活に生かすことを考えさせる「生かそう」のコーナーを16か所設定している。
- 生活に生かすことを意識させるために6年のテーマを「くふうして生活に生かそう」と設定している。
- 「環境マーク」を記したコーナーで、環境に配慮した取組を促したり、「発展」マークを併用したりして発展的な学習ができるようにしている。
- 学んだことを家庭で生かせるように「家庭で実践しようチャレンジコーナー」を5年で3回、6年で2回設定している。
- 家庭生活に関わる題材を学年の区切りや長期休業前に配列している。

## 4 内容の表現・表記

### (1) 挿絵、写真等の資料の活用の工夫

- 活動内容が分かるように、写真を数多く掲載している。
- 細かな情報は絵や図を併用している。

### (2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 本文の文字が全体的に濃い。ふりがなは、ややうすい。
- 重要な事項はゴシック体で表示している。
- 配色は、カラーバリアフリーに配慮している。

## 5 言語活動の充実

### (1) 言葉や図を使って考えたり説明したりする学習活動の工夫

- 「考えよう」「調べよう」「やってみよう」「話し合おう」など、言語活動を促すコーナーを1題材に1～3か所設定している。設定のない題材もある。
- 教科書に調べたことなどを書き込む欄があり、書き方の例を多く示している。

## 意見

開隆堂出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

開隆堂出版の教科書は、活動内容の見通しをもたせるため、実習の計画や手順を見開きで写真とともに一列に示したり、実践的・体験的な事例や作品事例を多く示したりするなどの工夫を施している。また、学習内容を生活に生かすための「チャレンジコーナー」が充実している。さらに、家庭科の基礎・基本として、家庭科で使う用語を「ひとロメモ」で解説し、巻末に一覧を設けている。こうした特徴は、縫い物や買い物等の生活体験が乏しく、児童自身が発信者となり生活をよりよく工夫しようとする実践意欲が乏しい本市児童の状況に対応するものである。

平成31年度に使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔体育〕種目〔保健〕

平成31年度使用小学校用教科用図書の採択について

教科 [ 体 育 ] 種目 [ 保 健 ]

1 本市の実態や児童の状況

- 本市では、全小学校において、早寝早起きや朝食の摂取などを促すため、「全校一斉生活リズムカレンダー実施週間」を設定し、児童の基本的な生活習慣の定着を図る取組を推進している。また、「食育推進担当者研修」の中で、平均残食率の低い学校やバランスのよい食事に向けた取組を進んで行っている学校の実践を発表する機会を設定し、取組を全市に広めている。
- 平成29年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、本市の児童の生活習慣の実態として、運動の実施頻度や、朝食の摂取状況は全国を上回っているが、睡眠時間に課題がみられる。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	① 単元の目標の示し方 ② 知識・理解の定着を図る工夫
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	③ 興味・関心を高めるための工夫 ④ 実生活・実社会に関連付けられるような記述や内容の工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑤ 単元の構成や配列、分量 ⑥ 補充的な学習や発展的な学習に関する内容の記述
＜内容の表現・表記＞	⑦ 記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の活用 ⑧ 配色や文字の大きさ等の工夫
＜言語活動の充実＞	⑨ 自分の考えをまとめて、書いたり話したりする活動の充実

### 3 各教科書の特徴及び意見

#### 1 基礎・基本の定着

##### (1) 単元の目標の示し方

- 各単元の扉に、写真とともに学習内容を示している。
- 各小単元の冒頭に、質問形式で学習課題を示している。

##### (2) 知識・理解の定着を図る工夫

- 各単元末に、これまでの学習を振り返り、知識・理解の定着を図る場面を設定している。
- 補足説明は、「まめちしき」のコーナーで行っている。
- 学習のまとめは、小単元の終わりの部分に示している。

#### 2 主体的に学習に取り組む工夫

##### (1) 興味・関心を高めるための工夫

- 子供キャラクターを用いて、課題解決へのヒントを与えたり、説明をしたりしている。
- 3年の学習のはじめに、子供のキャラクターを探すコーナーを掲載している。

##### (2) 実生活・実社会に関連付けられるような記述や内容の工夫

- 3年の「けんこうによい1日の生活」では、食事、運動、休養・睡眠について2ページに渡って掲載している。
- 5・6年の「犯罪被害の防止」「地域の様々な保健活動の取組」に関するものを6例掲載している。
- 各単元末に、自分の生活の課題を見付けたり、これからの自分の生活に生かすことを考えたりする場面を設定している。

#### 3 内容の構成・配列・分量

##### (1) 単元の構成や配列、分量

- 1単位時間の学習内容を、2～4ページ（2ページ単位）で構成している。
- 3・4年は8小単元、29ページ、5・6年は17小単元、51ページで構成している。

##### (2) 補充的な学習や発展的な学習に関する内容の記述

- 3・5・6年において、学習内容に関連したホームページを紹介している。
- 4年の発展的な内容である「生命」について、挿絵と写真を用いて2分の1ページに渡って掲載している。

#### 4 内容の表現・表記

##### (1) 記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の活用

- 3・4年では、記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の資料を36点掲載している。

##### (2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- B5版よりやや大きい紙面で、淡い色を多く用いている。

#### 5 言語活動の充実

##### (1) 自分の考えをまとめて、書いたり話したりする活動の充実

- 5・6年では、自分の考えをまとめたり、話合いのために記入したりする活動が26カ所ある。

**1 基礎・基本の定着****(1) 単元の目標の示し方**

- 各単元の扉に、挿絵とともに学習内容を示している。
- 各小単元の冒頭に、質問形式で学習課題を示している。

**(2) 知識・理解の定着を図る工夫**

- 各単元末に、これまでの学習を振り返り、知識・理解の定着を図る場面を設定している。
- 補足説明は、ページ下部の「ミニちしき」のコーナーと、専門家キャラクターを用いて行っている。
- 学習のまとめは、小単元の終わりの部分に示している。

**2 主体的に学習に取り組む工夫****(1) 興味・関心を高めるための工夫**

- にわとりのキャラクターと、子供キャラクターを用いて、課題解決へのヒントを与えたり、説明をしたりしている。
- 各単元の扉に「キャラクター探し」や「間違いさがし」を掲載している。
- 調べ学習でシールを使用する学習活動を設定している。
- 広島市の食育推進スローガンと、食育推進キャラクターを掲載している。

**(2) 実生活・実社会に関連付けられるような記述や内容の工夫**

- 3年の「けんこうな1日の生活のしかた」では、食事、運動、休養・睡眠について4ページに渡って掲載している。
- 5・6年の「犯罪被害の防止」「地域の様々な保健活動の取組」に関するものを6例掲載している。
- 5年の「不安やなやみをもったとき」の学習では、「体ほぐしの運動」の行い方について1ページに渡って掲載している。

**3 内容の構成・配列・分量****(1) 単元の構成や配列、分量**

- 1単位時間の学習内容を、2～4ページ（2ページ単位）で構成している。
- 3・4年は8小単元、29ページ、5・6年は16小単元、49ページで構成している。

**(2) 補足的な学習や発展的な学習に関する内容の記述**

- 6年において、学習内容に関連したホームページを紹介している。
- 4年の発展的な内容である「生命」について、挿絵と写真を用いて1ページに渡って掲載している。

**4 内容の表現・表記****(1) 記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の活用**

- 3・4年では、記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の資料を37点掲載している。

**(2) 配色や文字の大きさ等の工夫**

- B5版の紙面で、淡い色を多く用いている。

**5 言語活動の充実****(1) 自分の考えをまとめて、書いたり話したりする活動の充実**

- 5・6年では、自分の考えをまとめたり、話し合いのために記入したりする活動が30カ所ある。

**意見**

大日本図書の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

大日本図書の教科書は、健康に過ごすための食事や運動、休養・睡眠のとり方についての記述が充実している。また、シールを使用する学習活動を設定しており、児童が自分の生活習慣について興味・関心をもつとともに、自分の生活を振り返り、これからどのようなことに気を付けて生活していけばよいかを考えることができるよう工夫している。こうした特徴は、生活習慣の中で、睡眠時間に課題がある本市児童の状況に対応することができるものである。



## 1 基礎・基本の定着

### (1) 単元の目標の示し方

- 各単元の扉に、挿絵とともに学習内容を示している。
- 各小単元の冒頭に、質問形式で学習課題を示している。

### (2) 知識・理解の定着を図る工夫

- 補足説明は、ページ下部の「つぶやきくん」のコーナーと、専門家キャラクターを用いて行っている。
- 学習のまとめは、小単元の終わりの部分に、黄色の枠内に示している。

## 2 主体的に学習に取り組む工夫

### (1) 興味・関心を高めるための工夫

- 子供キャラクターを用いて、課題解決へのヒントを与えたり、説明をしたりしている。
- 「アスリートからのメッセージ」のコーナーで、有名スポーツ選手から学習内容に関することやアドバイスを掲載している。

### (2) 実生活・実社会に関連付けられるような記述や内容の工夫

- 3年の「1日の生活のリズム」では、食事、運動、休養・睡眠について2ページに渡って掲載している。
- 5・6年の「犯罪被害の防止」「地域の様々な保健活動の取組」に関するものを3例掲載している。

## 3 内容の構成・配列・分量

### (1) 単元の構成や配列、分量

- 1単位時間の学習内容を、2～4ページで構成している。
- 3・4年は8小単元、25ページ、5・6年は16小単元、45ページで構成している。

### (2) 補充的な学習や発展的な学習に関する内容の記述

- 4・5・6年において、学習内容に関連したホームページを紹介している。
- 4年の発展的な内容である「生命」について、写真を用いて児童の詩（～その緒について）を1ページに渡って掲載している。

## 4 内容の表現・表記

### (1) 記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の活用

- 3・4年では、記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の資料を35点掲載している。

### (2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- A4版の紙面で、淡い色を多く用いている。
- 重要事項を太字で示している。

## 5 言語活動の充実

### (1) 自分の考えをまとめて、書いたり話したりする活動の充実

- 5・6年では、自分の考えをまとめたり、話合いのために記入したりする活動が31カ所ある。

## 1 基礎・基本の定着

### (1) 単元の目標の示し方

- 各単元の冒頭に、挿絵や写真とともに学習内容を示している。
- 各小単元の冒頭に、学習課題を示している。

### (2) 知識・理解の定着を図る工夫

- 補足説明は、ページ下部の「豆電球」のマークのコーナーと、専門家キャラクターを用いて行っている。
- 学習のまとめは、小単元の終わりの部分に示している。

## 2 主体的に学習に取り組む工夫

### (1) 興味・関心を高めるための工夫

- 子供キャラクターを用いて、課題解決へのヒントを与えたり、説明をしたりしている。
- 挿絵・写真・グラフ等を多く用いた紙面構成にしている。

### (2) 実生活・実社会に関連付けられるような記述や内容の工夫

- 3年の「けんこうな1日の生活」では、食事、運動、休養・睡眠について2ページに渡って掲載している。
- 5・6年の「犯罪被害の防止」「地域の様々な保健活動の取組」に関するものを6例掲載している。

## 3 内容の構成・配列・分量

### (1) 単元の構成や配列、分量

- 1単位時間の学習内容を、2～4ページで構成している。
- 3・4年は7小単元、29ページ、5・6年は15小単元、49ページで構成している。

### (2) 補充的な学習や発展的な学習に関する内容の記述

- 3・4・5・6年において、学習内容に関連したホームページを紹介している。
- 4年の発展的な内容である「生命」について、挿絵と写真を用いて2分の1ページに渡って掲載している。

## 4 内容の表現・表記

### (1) 記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の活用

- 3・4年では、記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の資料を33点掲載している。

### (2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- B5版の紙面で、濃い色も用いている。
- 重要事項を太字や色分けして示している。

## 5 言語活動の充実

### (1) 自分の考えをまとめて、書いたり話したりする活動の充実

- 5・6年では、自分の考えをまとめたり、話合いのために記入したりする活動が29カ所ある。

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標の示し方

- 各単元の扉に、写真とともに学習内容を示している。
- 各小単元の冒頭に、質問形式で学習課題を示している。

(2) 知識・理解の定着を図る工夫

- 各単元末に、これまでの学習を振り返り、知識・理解の定着を図る場面を設定している。
- 補足説明は、ページ下部の「ペン立て」のマークのコーナーと、専門家キャラクターを用いて行っている。
- 学習のまとめは、小単元の終わりの部分に示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 子供キャラクターを用いて、課題解決へのヒントを与えたり、説明をしたりしている。
- 「かがくの目」のコーナーで、実験やウイルスの写真などの科学的な資料を多く掲載している。

(2) 実生活・実社会に関連付けられるような記述や内容の工夫

- 3年の「1日の生活のしかた」では、食事、運動、休養・睡眠について4ページ（うち2ページは学校の実態に応じて活用する部分）に渡って掲載している。
- 5・6年の「犯罪被害の防止」「地域の様々な保健活動の取組」に関するものを4例掲載している。
- 各単元末に、自分の生活の課題を見付けたり、これからの自分の生活に生かすことを考えたりする場面を設定している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元の構成や配列、分量

- 1単位時間の学習内容を、2ページで構成している。
- 3・4年は8小単元、33ページ、5・6年は15小単元、53ページで構成している。

(2) 補充的な学習や発展的な学習に関する内容の記述

- 4・5・6年において、学習内容に関連したホームページを紹介している。
- 4年の発展的な内容である「生命」について、挿絵と写真を用いて3分の1ページに渡って掲載している。

4 内容の表現・表記

(1) 記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の活用

- 3・4年では、記述と関連付けられた挿絵・写真・グラフ等の資料を35点掲載している。

(2) 配色や文字の大きさ等の工夫

- A4版の紙面で、濃い色も用いている。

5 言語活動の充実

(1) 自分の考えをまとめて、書いたり話したりする活動の充実

- 5・6年では、自分の考えをまとめたり、話し合いのために記入したりする活動が27カ所ある。

意見

学研教育みらいの教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

学研教育みらいの教科書は、健康に過ごすための食事や運動、休養・睡眠のとり方について、児童の実態に応じて学習を深めることができ、児童が自分の生活を振り返り、これからどのようなことに気を付けて生活していけばよいかを考えることができるよう工夫している。こうした特徴は、生活習慣の中で、睡眠時間に課題がある本市児童の状況に対応することができるものである。